

令和7年10月17日

社会福祉法人^{恩賜}_{財団}東京都同胞援護会

利用者への虐待事案について

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会（以下「本会」という。）が運営する特別養護老人ホームフジホームにおいて、令和7年6月15日、施設の介護職員による利用者への介護・世話の放棄や放任等虐待に該当する事案が発覚いたしました。

この度の事案に関しまして、本会といたしましては極めて深刻な事態と認識しており、当該利用者様をはじめ、関係者の皆様に心より深くお詫び申し上げます。

社会福祉法人の責務を担う立場として、このような事態が発生したことを厳粛に受け止め、深く反省しております。今後、再発防止に向けた徹底した対策を講じ、信頼回復に向けて全力で取り組んでまいります。

1. 施設の名称等

施設名：特別養護老人ホームフジホーム（以下「施設」という。）

（昭和40年9月開設、定員100名）

所在地：東京都昭島市中神町1260番地

2. 再発防止に向けた主な対応

（1）職務体制の改善

- 虐待の根本原因となっている職務体制の不備を早期に解消し、常勤職員の確保、職員構成の適正化及び特定の職員の夜間勤務の偏在解消を実施します。

（2）虐待防止研修の実施

- 施設職員並びに本会全職員を受講対象とした虐待防止悉皆研修を実施いたします。

（3）虐待防止の当事者意識の醸成

- 全介護職員との面談を実施し、虐待防止への意識を高めます。
- 全職員が虐待防止の当事者として、相互に声掛けを行い、虐待事案に気づいた際には速やかに周囲に伝える体制を構築いたします。

（4）相談しやすい職場環境の整備

- フロア会議を定期的を開催するとともに、職員会議又は直接施設の課題を議論する場を設けるなど職員が意見を発信しやすい体制

を整備します。

(5) 施設長の業務改善及び管理体制の強化

- 施設長等による巡回を強化し、サービス状況の確認を徹底いたします。
- 施設長が本来の業務に専念し、業務改善に注力できるよう、リーダーシップの発揮を妨げている業務を整理いたします。
- 当面の間、本部職員を常駐させ、管理体制の強化を行います。

(6) D X機器の導入・活用

- 見守りカメラやベッドセンサーなどのD X機器を設置し、職員の業務を支援します。
- 緊急時の迅速な対応のために、介護職員はデジタルインカムを装着し、連絡体制を強化いたします。

以上、再発防止を最優先に取り組んでまいります。関係者の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この件に関するお問い合わせ
社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会
担当：事務局施設部 岡本
03-3341-7161